

ダリアのふるさと メキシコ

山 口 ま り

ダリアは、多種多様な花型・花径・花色・草丈をもち、ガーデン用・鉢物・切花と多目的に栽培・利用され、現在では、2万とも3万とも言われる園芸品種がある。

その元になったダリアは、35種（27や30種とする説も）ほどある野生種のうち *Dahlia coccinea*、*D.pinnata*、*D.mercii* などの2～3種のみが関与しているだけだという。

ダリア属は、中米から南米北部中央の標高500～4,300 mの山地部に自生している。雨季の始まる5月ごろ発芽し、雨季の終わる11月に乾燥と低温のため地上部が枯れ、休眠に入る。最初にスペインにもたらされたダリアが採種されたというメキシコシティ（標高2,150 m）は、平均気温が1月は12℃、7月が21℃の温暖で冷涼な気候。雨季と乾季に分かれており、年間では1,200mmほどの降水量があるが、乾季の1月は6mm、雨季の6月が360mmほどである。メキシコシティのある北緯20度付近の日長は、最短の12月で約12時間、最長の6月で14時間である。

昨年の花葉会・海外園芸事情調査団は、メキシコの野生植物の調査（9月22～29日）が計画され、ダリ

アの野生種に出会いたいと参加した。メキシコは、ダリアの他にもコスモス、マリーゴールド、ジニアなど、馴染み深い園芸植物の原種の宝庫でもある。

最初にダリアに出会ったのは、メキシコシティにあるメキシコ国立自治大学の植物園にあった *D.coccinea*。園内のあちこちに半野生化したように咲いていた。ここは、花色の変異が多く、黄色から朱赤の花が見られた。

完全な野生のダリアとの出会いは、メキシコシティ郊外の標高2,400mの斜面にへばりつくように家々が並んでいる村落の中の開けた斜面。ここも *D.coccinea* であった。巨大なウチワサボテンや灌木と競うように、小さな集団を作り、草丈1.5～3mほど、朱色の一重の花を咲かせていた。周囲には、コスモス、ビデンス、ヘリアンサス、サルビアなどが見られた。

もう一つの有力な原種、*D.pinnata*（表紙写真）の自生地は、標高2,100～3,000 mの岩の多い斜面だと言う。メキシコシティから南東へ450kmに位置するオアハカ州州都オアハカ（標高1,550m）市内からの郊外の山地へ山肌を切り崩して建設された道路をピンナータを見るため専用バスを走らせた。標高2,000 m付近からコッキネアが現れた。2,500 m付近から道路わきの岩壁に、点々とピンナータが見られるようになった。コッキネアのように他の植物と混生せず、独立して、株全体の姿が確認できる。岩の表面に少量たまった土に根を広げ、はりつくように生えている。球根が表から見えているものもある。この写真を撮影したのは、標高2,800m付近。草丈50～80cm、雨季の真っ只中で、雨を避けるようにどの花もうつむいている。園芸種でも横向きに咲くダリアが多いのが分かった気がした。周囲には、宿根ルピナス、クフェア、ビデンス、ペンステモンなどが見られた。

サボテンと共に生育していることから、ダリアは乾燥を好むと記載されている書籍に出会うことがあるが、前述したように雨季に生育するため水を好む。但し、生育場所は水はけのよい斜面なので滞水は嫌う。原種の自生地を見て、ダリアの性質を再認識した。



斜面に咲く *Dahlia pinnata*